

## 蓮光院跡

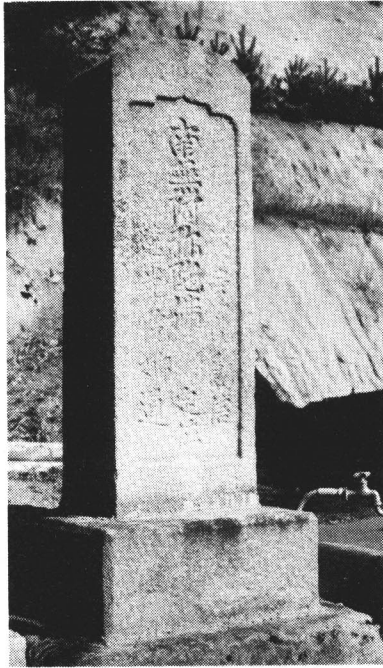
した庵のあったところとみられます。

石塔の中でとりわけ大きいのが、高さ約一メートル十五センチ、幅三十七センチの花崗岩の石塔で、中央に南無阿弥陀佛、左に蓮光院妙通、側面には正徳、

蓮光院跡の墓碑

元年（一七一）建立と刻まれています。

当時、天台宗の法印がこの地に住み、祈禱、加持を行なっていました。その死後妻女も尼となってその寺に起居し、仏道に帰依し、近隣の信望を集めていました。その人が蓮光院であったと伝えられています。その境の目の三差路より広瀬川寄りの水田の一角に「地藏川原」と呼ばれるところがあります。この辺が地藏の並ぶ参道ではなかったかといわれています。



御代田から靈山町石田に通じる県道・境ノ目の三差路より東へ一五〇メートル入った高台、今野氏の宅地の西片隅に数基の石塔の並んだところがあります。石塔や刻まれた法名により寺または、それに類